

こども自然公園の未来を一緒に考えませんか？

パークマネジメントプランの策定に向けた 「現状と課題」について



2023年5月

横浜市環境創造局公園緑地部

北部公園緑地事務所

目次

目次	2
1. こども自然公園の概要	3
(1) 公園概要	3
(2) 公園施設等	4
2. 現状	6
(1-1) 基本的性格	6
(1-2) 立地特性	8
(1-3) 周辺地区の動向	9
3. 課題	10
(1) 多様な施設の効果的な連携	10
(2) 休日のインフォメーション機能の充実	10
(3) イベントの効果的な活用や効率的な運営	10
(4) 冬季等や平日の公園の活性化	10
(5) 高木の適正管理や生物多様性の観点による管理の充実	11
(6) こどもが主役となって楽しめる公園づくり	11
(7) 草地広場を含めた未整備エリアの活用	11
(8) 売店等の老朽化	11
(9) 広域避難場所として災害時の対応内容の共有	11
(10) 公民連携（公共、民間、地域）による公園の魅力アップ	12
(11) 公園利用者のマナー向上	12
4. パークマネジメントプランとは	12
(1) パークマネジメントプランの目的	12
5. パークマネジメントプラン策定の進め方	12
(1) 基本となる考え方	12
(2) 策定の方法	13

1. こども自然公園の概要

(1) 公園概要

こども自然公園は、旭区と一部泉区にまたがり、北東南西方向に約 1 km、北西南東方向に約 500mとやや細長く、面積は 46.4ha の広域公園です。丘陵地であるため園内に高低差があります。

表) 公園概要

項目	内容
名称	こども自然公園 (通称：大池公園)
開園年	1972 年
公園面積	46.4ha
所有	横浜市
所在地	旭区大池町 65-1
アクセス	相鉄線「二俣川」駅南口下車徒歩 15 分 相鉄線「南万騎が原」駅徒歩 7 分 相鉄バス「万騎が原中央」または「万騎が原大池」下車徒歩 3 分 (「二俣川駅南口」から旭 1・旭 6 系統を利用) 無料駐輪場 (入口広場隣) 有料駐車場 (第一駐車場：172 台、第二駐車場：182 台、第三駐車場：47 台・バス 10 台、臨時駐車場：49 台)
公園種別	広域公園
用途地域 (都市計画法)	市街化調整区域 (公園周辺は主に第 1 種低層住居専用地域)
沿革	1972 年 開園 1979 年 万騎が原ちびっこ動物園開園 1985 年頃 こども自然公園野外活動センター (仮称) 新築工事 2008 年 とりでの森遊具設置 2016 年 こども自然公園休憩管理棟新築工事 2017 年 こども自然公園拡張広場整備工事 2017 年 こども自然公園詰め所跡地駐車場整備工事
管理形態	市直営管理：園地、トイレ、レストハウス (巡視、清掃、樹木管理、施設修繕は委託を実施。)、野球場

	指定管理事業者：自然体験施設、万騎が原ちびっこ動物園、青少年野外活動センター 管理許可事業者：駐車場、バーベキュー場、売店
--	--

(2) 公園施設等

表) 主な公園施設

主な公園施設	修景 大池、中池、湿地 彫像 (池畔の乙女像) 植栽 桜山 (サクラ約 300 本) 梅林 (ウメ約 38 種類・220 本) 樹林地 (落葉広葉樹林、針葉樹林、針広混交林常緑広葉樹林) 草地 (ススキ草原 2 ha 以上) 遊具 とりでの森大型遊具、ブランコ、すべり台 教養 万騎が原ちびっこ動物園 青少年野外活動センター 教育水田等自然体験施設 記念碑 (「めだかの学校」歌碑、弁財天) レストハウス、 ^{あずまや} 四阿 野球場 (約 6,000 m ² 、軟式用) 休養 売店、自動販売機、駐車場、バーベキュー広場、トイレ 運動 自治会防災倉庫電話ボックス、防火水槽 便益 その他
設備	イベント等で使用できる電源設備はない。
指定管理施設	自然体験施設 (教育水田・里山・畑等) (特定非営利活動法人こども自然公園どろんこクラブ) 万騎が原ちびっこ動物園 ((公財)横浜市緑の協会) 青少年野外活動センター ((公財)横浜市スポーツ協会)

【公園施設写真】



別名「大池公園」の大池



再生した桜山



梅林



野球場



ダイナミックな「とりでの森」



ピクニック広場



芝生広場



バーベキュー広場



教育水田の里山風景



万騎が原ちびっこ動物園



レストハウス
北部公園緑地事務所



売店

2. 現状

(1-1) 基本的性格

ア 未来を担う子どもたちが豊かな自然の中で遊び、活動する場

本公園は、名称に「こども」という言葉が入っているように、こどもを主役とした「こどものあそびのふるさと」です。豊かな自然の中において遊び、活動することによる基礎体力向上や健康促進を目指す場であるとともに、自然の大切さや心地よさを体験・学習できる場でもあります。

園内には、大型遊具のある「とりでの森」、小動物とふれあいながら学習できる「万騎が原ちびっこ動物園（所管課：動物園課）」、稲作や畑作および周辺の自然を生かした活動等ができる「自然体験施設」、野外炊事・キャンプファイア等が体験できる「青少年野外活動センター（所管課：こども青少年局）」など、主にこどもに焦点をあて、遊んだり、活動したり、学習したりする場が複数あります。

また、ピクニック広場やドーナツ広場を中心に学校等の遠足やピクニックでの利用を通して、豊かな自然の心地よさを体験することもできます。

イ 「緑の10大拠点」として緑をまもり・育てる

こども自然公園は、「緑の10大拠点」における「大池・今井・名瀬地区」の一部に含まれており、市街地に残る貴重かつ豊富な自然環境を保全するとともに、地域の原風景を継承する場でもあります。

園内には、特徴的な谷戸地形、大池等の水辺空間、雑木林等の貴重かつ豊富な自然環境が存在しています。西尾根の水辺にはホタルが生息（文化財保護区域に指定）するほか、園内には貴重な野鳥や昆虫・植物が生息するなど、自然環境は動植物の生息環境としても重要な役割を果たしています。大池・中池周辺にはキンクロハジロ等、樹林地にはホトトギス等多くの渡り鳥が飛翔し、樹林地も含めると70種あまりの野鳥の姿や鳴き声を楽しむことができます。

また、春はサクラ・新緑・色とりどりの野草、夏はアジサイ・ユリ・ホタル・カブトムシ、秋はススキ・稲穂・赤トンボ類、冬から早春にかけてはウメ・多様な水鳥と、豊かな自然を基調とした緑や生き物が織りなす四季の景観を楽しむことができます。

自然環境は、本公園の魅力の基礎であるため、動植物の調査や里山の管理作業などによる保全活動に取り組んみ、これらを維持することにより地域の原風景を継承しています。

ウ 防災・災害対応

こども自然公園は、広域避難場所であるほか、水道局管轄の緊急給水栓を備えており、地域の防災の拠点としての役割を担っています。また、「青少年野外活動センター（所管課：こども青少年局）」は他都市応援職員等の宿泊施設に位置づけられており、災害時には拠点となる機能を有しています。

エ 地域の活動の場（コミュニティの醸成）

公園愛護会の活動として「こども自然公園第二広場愛護会」による自由広場の清掃等の活動や、万騎が原小学校及び南本宿小学校は稲作の体験教育を行っているほか、市内外の幼稚園、小学校のオリエンテーションや遠足の場として活用されているなど、地域活動や教育の場として活用されています。

自然体験施設でのボランティア活動や、青少年野外活動センター（所管課：こども青少年局）でのヨガやピラティス教室などにより、幅広い世代のコミュニティを醸成しています。

また、毎年開催している「横浜旭ジャズまつり」は市民ボランティアにより企画・運営され、旭区誕生 50 周年記念事業「流鏑馬祭^{やぶさめ}」は区内在住・在勤の若手経営者等を中心に企画・開催されるなど、地域の方々が活躍し、楽しめる場としての機能も有しています。

これらの活動を通じた参加者同士のコミュニケーションの場としても機能しています。

オ 広域のレクリエーション需要に供する公園（広域公園）

本市の区域を超える広域の利用に供することを目的とし、多様なレクリエーション活動を楽しめる自然的環境をいかした公園です。

イベント利用として、こども自然公園の自然を題材とした謎解きイベント「謎スタ」や、ごはんを楽しむ食のフェスティバルである「朝ごはんサミット」（会場：入口広場）や、キッズパークや自然の中でのワークショップなどを楽しむことができる

「YokohamaNatureWeek」（メイン会場：ドーナツ広場、ピクニック広場等）が開催され、市内外から 18,000 人の人が公園を訪れました。

カ 利用状況

こども自然公園は、平日は主に地域の方々の利用が多く、土日祝日は地域の方々以外の市民のほか、他の市町村からの利用も多く見られます。

園内には主にこどもに焦点をあてた多くの施設を有し、遊んだり、活動したり、学習したりする利用があります。幼稚園や学校の遠足等での利用を通して、豊かな自然の心地よさを体験することもでき、一年の中でも特に、5月、10月は遠足での利用が非常に多い状況です。

四季折々の動植物の観察や散歩・休息等の日常的な利用のほか、ドーナツ広場、ピクニック広場等での家族や友人とのピクニックなど、こどもから大人まで、多様な楽しみかたをする利用も見られ、特に桜山・梅林での花見の季節には多くの利用者で賑わいます。

そのほか、イベントでの利用もされており、市民ボランティアによる「横浜旭ジャズまつり」は毎夏開催され、地域の活性化に寄与しています。

キ 団体の活動等の状況

こども自然公園では「こども自然公園第二広場愛護会」が活動しており、公園の自由広場

の清掃等を実施しています。

その他自然体験施設のボランティア活動では、豊かな自然であることを背景に、鳥類や昆虫、植物の愛好家の方が観察等を行っています。

(1-2) 立地特性

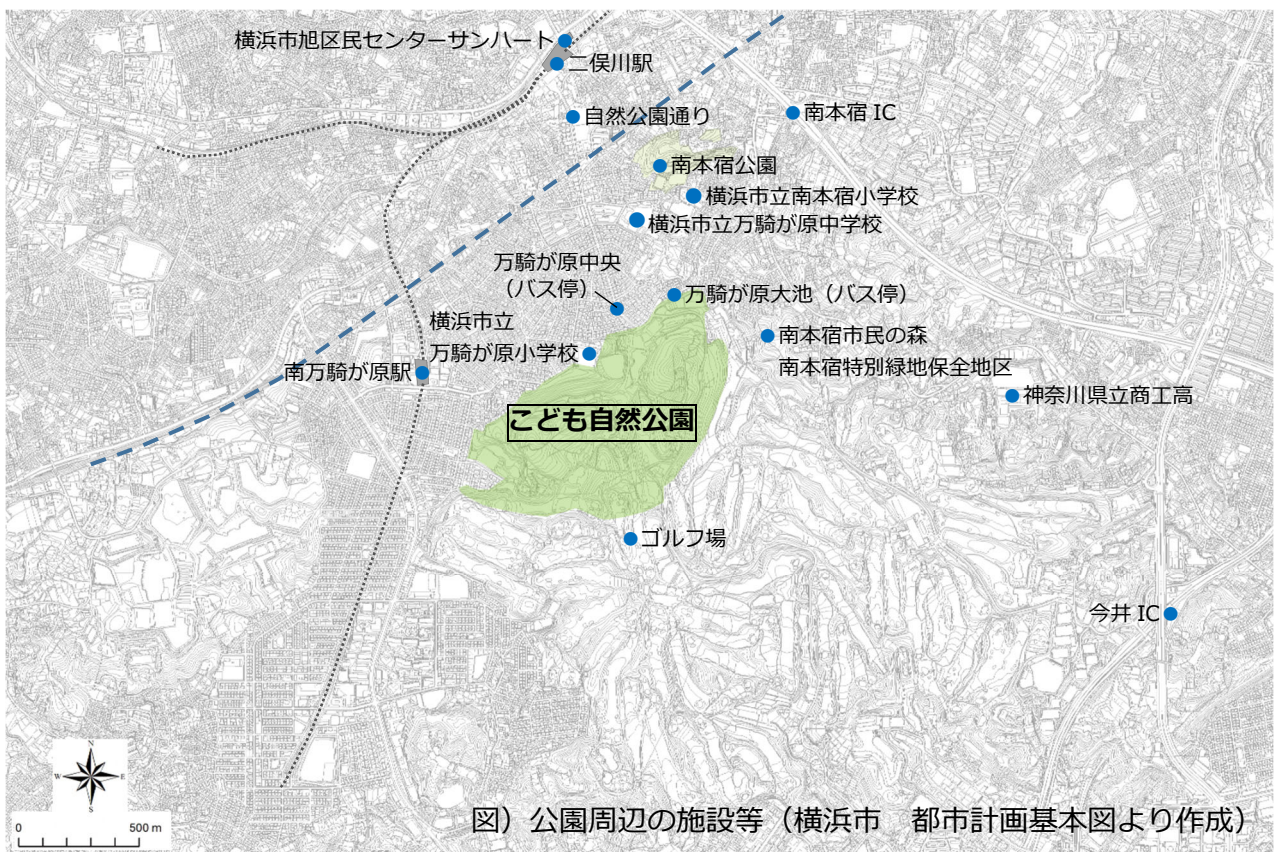
こども自然公園は、所在地は旭区ですが、戸塚区、泉区にまたがる丘陵地に位置しています。大池を中心とした5つの尾根と4本の谷戸からなり、園内は急な斜面地と緩やかまたは平坦で比較的広い尾根部、大池や中池を中心とする谷戸部から構成されています。

周辺には、南側に戸塚カントリー倶楽部や南本宿市民の森が位置し、こども自然公園とともに市として保全すべき貴重な緑の拠点を形成しています。(緑の10大拠点)。これらの用途地域は、公園を含め市街化調整区域です。

それらを除く周辺は住宅地であり、用途地域は主に第1種低層住居専用地域です。

アクセスは、相鉄線「二俣川駅」や「南万騎が原駅」から徒歩で利用できるほか、バス通りにも面しています。また、園内には、無料駐輪場や複数の有料駐車場があり、様々な方法でアクセスできる公園です。遠方からは横浜新道川上バイパスの南本宿ICの利用が比較的便利です。

周辺にある公共施設として、横浜市立万騎が原小学校・南本宿小学校が公園周辺に位置しています。



(1-3) 周辺地区の動向

最寄り駅の鉄道である相鉄線では、2019年にJR相互直通運転、2023年3月には相鉄線と東急線の相互直通運転も開始され、二俣川駅から東京都心へのアクセス性が向上しました。

また、二俣川南口地区の再開発により、新たな商業施設やタワーマンションが整備され、二俣川駅周辺のエリアでの賑わいが増加しています。

表) 二俣川駅周辺の動向

時 期	主な内容
2018年	二俣川駅南口地区市街地再開発事業により建設された施設建築物『COPRE（コプレ）二俣川』、商業施設『JOINUS TERRACE（ジョイナステラス）1』、相鉄線二俣川駅駅舎ビル『JOINUS TERRACE 2』、地上29階のタワーマンション『グレーシアタワー二俣川』がオープン。
2019年	相鉄・JR 直通線開業
2023年3月	相鉄・東急直通線開業



図) 相鉄・JR及び相鉄・東急の相互直通運転
 (都市整備局都市交通部都市交通課ホームページ「神奈川東部方面線の整備」の図を一部加工)

3. 課題

(1) 多様な施設の効果的な連携

園内には、自然体験施設（教育水田等）、バーベキュー広場、万騎が原ちびっこ動物園、レストハウス、青少年野外活動センター、とりでの森大型遊具、野球場、ピクニック広場等、多様な施設が様々な管理者により運営されています。利用者サービスの向上に向けて、情報発信の方法など効果的な連携が求められています。

(2) 休日のインフォメーション機能の充実

平日は、公園全体の管理者である北部公園緑地事務所が開所しており、利用者の問い合わせ対応等を行っていますが、イベントの開催等を含め利用者の多い、土日祝日は基本的には閉所しているため、自然体験施設等各施設管理者が個別に対応している状況です。園全体として休日のインフォメーション機能の充実が求められています。

(3) イベントの効果的な活用や効率的な運営

地域コミュニティの場として自然体験施設指定管理者による定例的な季節イベントに利用されるほか、旭区共催イベントで利用され、多くの方々に楽しんでいただいています。特に、2016年から3か年連続して実施した「YokohamaNatureWeek」は、近年では最大級の利用者となり、公園の新たな魅力の発見につながりました。こども自然公園を楽しむ方法の1つとして、イベントを効果的に活用することが求められます。

一方、イベントの活用には、こども自然公園の遠足等の利用や公園の将来像に沿ったものとする運営方法の配慮や、イベントによる維持管理業務を効率的に行う環境整備の検討も必要です。



旭区共催「横浜旭ジャズまつり」



指定管理者主催「朝ごはんサミット」

(4) 冬季等や平日の公園の活性化

四季を通じて様々な姿を楽しめる公園ですが、冬季や真夏は公園利用者が他の季節に比べて少なくなっていることが課題となっています。

また、有料施設として野球場やバーベキュー広場が設置されていますが、平日の利用が少ないことも課題となっており、冬季等や平日の利用者の増加につながる公園の活性化策が必要とされています。

(5) 高木の適正管理や生物多様性の観点による管理の充実

高木の巨木化や老朽化による倒木等が発生しており、桜山ではサクラの衰退も進んでいます。また、近年流行しているナラ枯れやマツノザイセンチュウによるマツ枯れなど、動植物に関する問題が増えており、適切な対応が求められます。

また、ホトケドジョウ、クツワムシ、トンボなど貴重な生物が生息しており、水田や湿地の水質管理等、適切な管理が求められます。

(6) こどもが主役となって楽しめる公園づくり

これまでも、こどもが主役となるような公園づくりを進めてきましたが、未来の横浜を担う次世代を育む「こどものあそびのふるさと」となる公園づくりを継続することが求められます。

一部の園路は未舗装であるため、ベビーカーや車いすを押しにくい等の声も聞かれる点も課題の一つであり、原風景保全とのバランスを取った整備が求められています。

(7) 草地広場を含めた未整備エリアの活用

草地広場について、公園の新たな魅力となるよう、整備・運営することが求められます。インフラの整備にあたっては、土地の取得も含めた検討が必要です。

(8) 売店等の老朽化

開園後約 50 年経過し、売店をはじめ各施設の老朽化が進み、機能の見直しを含めた早急な再整備の必要があります。

(9) 広域避難場所として災害時の対応内容の共有

本公園は、広域避難場所に位置付けられており、その役割を担うために、災害時には安全確保及び被害状況の把握を行い、必要に応じ、応急対策を行います。

発災時の適切かつ円滑な対応を行うため、各施設の管理者と災害時の対応内容を共有することが求められます。

(10) 公民連携（公共、民間、地域）による公園の魅力アップ

「公園における公民連携に関する基本方針」に基づき、公園の魅力アップに向けて公園愛護会やボランティア活動の活性化や、民間事業者等による賑わいや滞在する空間の創出等の公園の魅力アップについて、公民連携の手法を活かしながら進める必要があります。

(11) 公園利用者のマナー向上

禁止されている園内の自転車走行や一部のランニング利用者のマナー低下により散策利用の方との接触の危険性が高まっていること、禁止されている犬の放し飼いが課題となっており、公園利用者のマナー向上が求められています。

(12) 万騎が原ちびっこ動物園

1979年に開園し、施設の老朽化が進んでいます。モルモットやハツカネズミ等とのふれあい事業を含めた施設のあり方について検討が必要です。

4. パークマネジメントプランとは

(1) パークマネジメントプランの目的

パークマネジメントプランは、「横浜市水と緑の基本計画」（2016年6月）及び「公園における公民連携に関する基本方針」（2019年9月）に基づき、公園の魅力アップにつながる利活用を進めるにあたり、公園の立地特性、基本的性格、利用状況、課題等を踏まえ、公園の目指すべき将来像を地域の方々、利用者や担い手（関係団体、民間事業者等）となる皆様と共有するために策定するものです。パークマネジメントプランに基づく施策を実施することで、「公園の魅力アップ」とともに「利用者の満足度向上」、「維持・管理の効率性向上」を目指します。

5. パークマネジメントプラン策定の進め方

(1) 基本となる考え方

公園の目指すべき将来像を、地域の方々、利用者や担い手（関係団体、民間事業者等）の皆様と共有しながらプランを作成します。社会状況や課題等の変化を踏まえ、標準的な計画期間をおおむね10年間と設定します。

(2) 策定の方法

共有方法として、ご意見の募集を行うことを標準とします。

こども自然公園においては、まず「現状と課題」についての情報共有を行い、次にプランについてご意見を伺い、プランを策定していきます。なお、具体的な方法は公園により異なる場合があります。

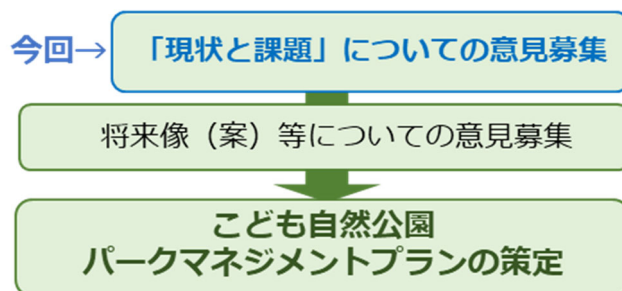


図) こども自然公園パークマネジメントプランの策定方法